

単元名 1 学びをひらく ー情報整理のレッスン 比較・分類
配当時間 1時間

単元の目標 (1) 比較や分類, 関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め, それらを使うことができる。
 (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。

標準的な展開例

10210105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 情報の比較・分類する方法を知る。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★情報を比較・分類してみよう。 ○ 情報を比較・分類する方法を確かめる。 ○ 練習問題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考の地図」(p. 9)や「情報整理の方法」(p. 271)を参考に, ①比較する(表), ②分類する(ラベリング), ③分類して比較する(ベン図), ④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し, 情報整理の目的と, それに適した方法を理解させる。 ・図や表で整理された情報を見て気付いたことを, 「比較に用いる言葉」(p. 32)や「順序を表す言葉」(p. 33)を使って発表させてもよい <p>【評】情報の整理の仕方について理解を深める活動を通して, 「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「練習問題」(p. 32～p. 33)に取り組ませる。 ・分類後, グループで考えを交流させ, 目的さえ達成できれば, 整理の仕方や観点の立て方は多様であってもよいことに気付かせたい。 <p>【評】学習内容を生かす活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため, 親しみやすい内容の物語を読むことを通して, 中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い, それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB- (9) 相互理解・寛容にあたり, これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は, 中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの, ここの学習を, 説明する力の基盤として捉え, 「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では, 物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ, 情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで, 取材する際に情報が分類整理しやすくなり, 目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また, 日常生活で行われる情報の伝達は, 整理された分かりやすいものばかりでは決してなく, 様々な情報が雑多に届けられる中で, 自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため, 「情報を的確に聞き取る」では, 自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして, 実用的なメモを取り, 生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して, 様々な事柄を真剣に考え, 知識や理解を深めることで, 言葉の力を鍛えていきたい。また, 情報を多角的に分析し, 根拠に基づいて判断することで, 論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では, 漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも, 中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組ませるなど, 意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また, 「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に注目させ, 漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。